

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XIII 政党

6 日本共産党

3 中央委員会総会

概況
共産党の大会は他党のように毎年ではなく、「二年または三年のあいだに一回ひらかれる」ことになっている。

最近の党大会は八〇年二月の第一五回大会で、その内容については本年鑑八一年版に収めた。「党大会から党大会までのあいだ、党大会の決議を実行し、党の全活動を指導する」のは中央委員会で、その総会はこの一年間に第七回から第九回まで三回ひらかれた(回数第一五回大会以降の通算)。これらの中央委員会総会はいずれも党本部でひらかれ、第一五回大会で選出された中央委員(一六六人)と准中央委員(二七人)が出席した。中央委員会総会からつぎの中央委員会総会のあいだは中央委員会幹部会が中央委員会の職務をおこなっている。このほか、方針決定のためでなく、中央で決定した方針を徹底し、全党の意思統一をはかり、活動の進行状況を伝え、経験交流をはかることなどを目的として、都道府県委員長会議や全国活動者会議がひらかれる。この一年間では、都道府県委員長会議が八一年九月、一二月、八二年四月の三回ひらかれた。また、八一年一〇月には一二回目の全国活動者会議が四年半ぶりにひらかれた。これらの会議の詳細は、翌日付の『赤旗』または翌月の『理論政策』にある。また全国活動者会議の記録は『前衛』八一年一二月臨時増刊号に特集されている。

なお、八二年七月二七日から三一日の五日間、第一六回党大会がひらかれ、他党の運動方針にあたる「大会決議」と「党規約の一部改正」および新役員を決定した。新役員については別項参照。他は本年鑑の八四年度版にゆずる。

七中総

共産党第七回中央委員会総会は、八一年七月二八日から三〇日までの三日間ひらかれた。この総会の中心議題となったのは、東京都議選の総括と党勢拡大運動であった。はじめに宮本委員長が幹部会を代表して冒頭発言をおこなった。そのなかで宮本委員長は、前回の中央委員会総会からわずか一ヵ月半おいただけで総会をひらいた理由は、都議選の教訓を全党のものとし、党勢拡大運動を全党の運動として発展させるためであると述べた。そして、六中総以降の活動のうち、論文「真の平和綱領のために」やソ連共産党を批判した書簡の送付など、国際問題での活動と都議選の結果について報告した。ついで「当面の情勢と課題」「党建設について」「選挙と党勢拡大の関連」等について論じた。そこでとくに強調されたのは、党勢拡大は選挙で勝利する前提ではなく、選挙の中心的課題であること、これを全党運動としてとらえることであった。

冒頭発言のなかで宮本委員長はまた、労戦統一問題についてつぎのように述べた。

いわゆる「労働戦線の統一」というのは、同盟ペースの右翼再編であり、そして真の階級的民主的労組切り捨てというものであることは、もうるのべるまでもありません。いま、日本の労働運動には三つ潮流があります。すなわち、この右翼再編促進の基本路線、また全体としてはこれに乗っかっておりながら、そのわく内で部分的調整をすることで労働者の批判をまぬがれようとする、こういう勢力、また、真の階級的、民主的統一とはなにかということをかかげたたかっている勢力であります。この右翼再編の本質は昨年来の公明党と民社党、社公合意路線、こういうものを労働運動版として持ち込んで、それを、「統一推進」という名前ですすめることで、真のねらいは反共野党の自民党政権への参加を労働運動版としてささえるというべらぼうなものであります。このことは、同盟が、臨調答申を基本的に支持するという態度をとっていることでも明白であります。総評大会でも、地方のまじめな活動家が、もしこういうことがすすむなら、労働運動の葬式だという批判をしましたが、これは実感がこもった発言であります。このなかで、統一労組懇が総評大会でも明確な反対の旗をかかげ、それを無視できなくて、総評大会では原案も修正案も採決しなかった、採決することができなかったという点は、統一労組懇の主張の正当性と役割の増大をしめしたものであります。すでに中立労連を上まわる百五十万を結集しておりますが、統一労組懇が最近発表いたしました二百万をめざすという仕事が成功するように、われわれも、おおいに協力したいと考えるわけでありす。

このあと不破書記局長の党務報告がおこなわれ、また「選挙戦における基礎票——組織票の構築の課題」と題する決議案が緋田選挙・自治体局長から提案された。総会ではこれらの報告にもとづき討論をおこない、二五人が発言した。討論では主として党勢拡大の問題が論じられ、なかでも機関紙の配達や集金問題が討議された。これは、八〇年九月以降の一年間で、東京では一一万部ふやした一方一〇万部減らし、大阪では一二万部ふやし八万部減らすといった事態があり、機関紙の定着が重要な課題となっていたためであった。最後に宮本委員長の結語があり、総会では冒頭発言、党務報告、決議、結語を全員一致で採択した。総会ではまた、六中総で決定された「党歴五十年党員」の該当者として野坂議長、宮本委員長、竹中恒三郎名誉中央委員の三人が確認されたことが報告された。詳細は『赤旗』八一年七月二十九日より八月一日付、または『理論政策』八一年八月号参照。

八中総

第八回中央委員会総会は七中総のあと七ヵ月半たった八二年三月一三日から一五日までの三日間ひらかれた。この総会の目的は第一六回大会の開催日時を決めること、また大会決議案の提示に先だって、労働組合運動など大衆運動や民青同盟など各分野の運動を総括することにあつた。最初に宮本委員長が冒頭発言に立ち、各議案の重点についてのべたあと、当面の情勢についてふれ、主として国会における減税問題などで公明、民社両党を中心に他の野党が共産党を排除する路線をとったことを非難し、いわゆる「中道」各党は「反共右派」であり、「新しい与党連合」であると批判した。また、社会党の新指導部についても、一定の変化はあつたが、依然として「社公合意」に拘束されており、社会党の「右転落」は根本的には変わっていないとのべると同時に、社会党内に「社公合意」破棄の声が強まっているという積極面も指摘した。宮本委員長は最後に、国際問題についてふれ、アメリカのエルサルバドル軍事介入とこれを支持する日本政府の態度を非難した。また国際共産主義運動の問題、とくに党のあいだでの論争にふれ、アメリカ共産党が「ソ連のメガホン」になって、日本共産党攻撃をおこなっていること、ソ連共産党が真の公開論争を避けていることを批判した。

総会はこのあと、不破書記局長の党務報告をうけ、さらにつぎの六つの決議案についての提案報告がおこなわれた。(1)大衆運動についての決議、(2)民青同盟についての特別決議(以上、市川正一常任幹部会委員提案)、(3)八三年選挙の準備活動強化のための決議(緋田常任幹部会委員)、(4)学習・教育活動についての決議(茨本常任幹部会委員)、(5)党建設・党勢拡大についての決議(宮本忠人常任幹部会委員)、(6)若干の国際問題にかんする決議(不明)。これらの議案の討議では延べ七一人が発言し、そのあと各報告者が討論のまとめをおこなった。最後に宮本委員長が討

論全体についての結語をのべ、総会は冒頭発言、党務報告、六つの決議とそれらにかんする報告とまとめを、それぞれ全員一致で採択した。総会はまた「党創立六〇周年にあたり、真の革新の党日本共産党への入党を訴えます」との呼びかけを採択し、第一六回大会を八二年七月二七日からひらくことを決定した。詳細は『理論政策』八二年四月号参照。

九中総

第九回中央委員会総会は八二年六月八日、九日の両日ひらかれた。この総会は、第一六回党大会の議案の決定および大会に向けての党勢拡大運動の推進をはかるためのものであった。宮本委員長は冒頭発言で、この総会の任務についてのべたあと、当面の政治問題にふれ、ロッキード事件の政治家グループへの有罪判決の意義を評価し、真相究明のたたかいを院の内外で展開すべきことを主張した。また国際的な高まりを見せている平和運動について、核兵器無条件禁止を中心に反核・平和のサークルを無数に国民のあいだにつくることの重要性を強調した。また大会議案に関連して、第一五回大会後の日本共産党の国際路線が明確であったとのべ、とくに雑誌『平和と社会主義の諸問題』がコミンフォルム化していることを批判し、その廃刊を主張したことの意味を強調した。最後に、党勢拡大を中心とした党活動の問題についてのべ、大会ごとに新しい記録をつくったという伝統をまもりぬくことを訴えた。

このあと不破書記局長が第一六回大会決議案の提案説明をおこない、総会はこれをうけて討論をおこない一六人が発言した。また、茨木常任幹部会委員が党大会に提出する「党規約の一部改正案」について、戎谷副委員長が「躍進大運動の党勢拡大目標達成のために、各級党機関、全党組織、すべての党員は総決起しよう」との総会決議について、それぞれ提案説明をおこない、質疑討論がおこなわれた。最後に不破書記局長が討論の結語をのべ、総会は冒頭発言、大会決議案、規約改正案、総会決議および結語を満場一致で採択した。九中総の詳細は『赤旗』六月九日から一日付、または『理論政策』八二年七月号にある。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
